

(1)現状と課題		(2)概要					(3)施策体系		(4)県民アンケート結果																									
<p>台湾高雄線・香港線の定期便就航や、多くのクルーズ船の寄港、増加し続ける熊本港のコンテナ取扱量など、海外との交流等を着実に進めてきました。しかし、熊本地震により、香港及びソウルとの国際航空路線の運休が続くなど、海外との人や物の往来に影響が及んでいます。このため、阿蘇くまもと空港及び熊本港・八代港の復旧や運休した路線の再開、人流・物流機能の更なる向上や、災害時に支援活動等の拠点となるための機能強化が必要です。</p>		<p>「大空港構想NextStage」に基づき、熊本地震により被害を受けた阿蘇くまもと空港の復旧・機能強化やアクセス向上、空港周辺地域の活性化に取り組みます。</p> <p>また、八代港への年間70隻以上のクルーズ船寄港を実現するため港湾機能の向上を図るとともに、熊本港も含めた耐震強化岸壁の整備や航路の増便等を進め、海外展開の拠点化を推進します。</p>					<p>「大空港構想NextStage」に基づく阿蘇くまもと空港の復旧・機能拡充 【担当部局：企画振興部・土木部】</p>		<p>【満足度】</p> <table border="1"> <caption>大空港構想NextStage 満足度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>どちらでもない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>7.0</td> <td>26.7</td> <td>47.8</td> <td>14.9</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>5.3</td> <td>24.5</td> <td>51.3</td> <td>14.4</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>3.9</td> <td>21.1</td> <td>52.8</td> <td>18.9</td> <td>3.4</td> </tr> </tbody> </table>		年度	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	R1	7.0	26.7	47.8	14.9	3.6	H30	5.3	24.5	51.3	14.4	4.5	H29	3.9	21.1	52.8	18.9	3.4
年度	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満																													
R1	7.0	26.7	47.8	14.9	3.6																													
H30	5.3	24.5	51.3	14.4	4.5																													
H29	3.9	21.1	52.8	18.9	3.4																													
<p>★重要業績評価指標 (KPI)</p>		策定時	H28	H29	H30	目標値	<p>【今後の方向性】</p> <table border="1"> <caption>大空港構想NextStage 今後の方向性</caption> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拡大</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>40.4</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>1.7</td> </tr> </tbody> </table>		方向性	割合	拡大	57.9	現状維持	40.4	縮小	1.7																		
方向性	割合																																	
拡大	57.9																																	
現状維持	40.4																																	
縮小	1.7																																	
<p>施策12 ①</p>	<p>i 阿蘇くまもと空港利用者数 【施策5-①と同一】</p>	323 (H27)	298 <78.4%>	334 <87.9%>	346 <91.1%>	380 [万人/年]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>R1</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>8</td> <td>605,780千円</td> <td>R1</td> <td>8</td> <td>1,099,183千円</td> </tr> </tbody> </table>		H30	事業数	決算額	R1	事業数	予算額	H30	8	605,780千円	R1	8	1,099,183千円														
	H30	事業数	決算額	R1	事業数	予算額																												
	H30	8	605,780千円	R1	8	1,099,183千円																												
<p>分析</p> <p>関西空港線の就航による国内線利用者増に加え、冬ダイヤでのソウル線の毎日運航実現や大邱線の新規就航により国際線利用者が初めて20万人を超えたことで、阿蘇くまもと空港の利用者数は、過去最高だったH29年度を更に上回る346万人(H29年度比3.5%増)となった。</p>		<p>中国クルーズマーケットの拡大に伴い配船を急増させていた船社が競争過熱により調整局面に入り、中国発のクルーズ船の寄港が減少したことなどにより、H29年の実績より減少した。</p>																																
<p>施策12 ②</p>	<p>i クルーズ船寄港数</p>	12 (H27)	12 <17.1%>	66 <94.3%>	30 <42.9%>	70 [隻/年]	<p>【満足度】</p> <table border="1"> <caption>熊本港・八代港の海外展開拠点化 満足度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>どちらでもない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>6.9</td> <td>20.5</td> <td>55.6</td> <td>13.1</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>4.4</td> <td>23.0</td> <td>55.3</td> <td>12.2</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5.4</td> <td>17.7</td> <td>57.6</td> <td>15.3</td> <td>4.0</td> </tr> </tbody> </table>		年度	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	R1	6.9	20.5	55.6	13.1	3.9	H30	4.4	23.0	55.3	12.2	5.1	H29	5.4	17.7	57.6	15.3	4.0		
	年度	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満																												
	R1	6.9	20.5	55.6	13.1	3.9																												
H30	4.4	23.0	55.3	12.2	5.1																													
H29	5.4	17.7	57.6	15.3	4.0																													
<p>分析</p> <p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H29年の実績より1,311TEU(12.9%)増加し、2年連続で過去最高を記録した。</p>		<p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H29年の実績より1,944TEU(9.6%)増加し、3年連続で過去最高を記録した。</p>																																
<p>施策12 ②</p>	<p>ii 熊本港国際コンテナ貨物取扱量</p>	8,889 (H27)	7,386 <46.2%>	10,147 <63.4%>	11,458 <71.6%>	16,000 [TEU/年]	<p>【今後の方向性】</p> <table border="1"> <caption>熊本港・八代港の海外展開拠点化 今後の方向性</caption> <thead> <tr> <th>方向性</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拡大</td> <td>49.4</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>47.1</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table>		方向性	割合	拡大	49.4	現状維持	47.1	縮小	3.5																		
	方向性	割合																																
拡大	49.4																																	
現状維持	47.1																																	
縮小	3.5																																	
<p>分析</p> <p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H29年の実績より18,151 (H27) 18,980 <67.8%> 20,305 <72.5%> 22,249 <79.5%> 28,000 [TEU/年]</p>		<p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H29年の実績より1,944TEU(9.6%)増加し、3年連続で過去最高を記録した。</p>																																
<p>iii 八代港国際コンテナ貨物取扱量</p>		18,151 (H27)	18,980 <67.8%>	20,305 <72.5%>	22,249 <79.5%>	28,000 [TEU/年]																												
<p>分析</p> <p>助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスにより、H29年の実績より1,944TEU(9.6%)増加し、3年連続で過去最高を記録した。</p>																																		

[施策12] 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化

No. (5)平成30年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
<p>施策12-①</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿蘇くまもと空港運営の民間委託の公募手続において、応募者に県の施策の方向性等を的確に伝え、優先交渉権者にMSJA・熊本コンソーシアムが選定。R4年度中の新ターミナルビル供用に向け国等関係機関と調整を実施 香港線の定期便化により、高雄線とソウル線と併せ、熊本地震で運休した国際線3路線が全て定期便として再開。さらに、冬ダイヤにおいてソウル線の毎日運航が実現するとともに韓国・大邱線が新たに就航し、国際線利用者数は過去最高(約20.7万人)を記録 空港へのアクセス向上等のため、国道443号の4車線化の用地取得や、県道堂園小森線の用地取得・改良工事を推進。また、阿蘇くまもと空港地下道の補修工事が完了 空港へのアクセス改善について、鉄道整備案を最良と選定するとともに、鉄道整備に関する基本的方向性についてJR九州が同意。また、空港ライナーの利用者は過去最高(約11.3万人)を記録 	<ul style="list-style-type: none"> 新運営権者の空港運営事業開始に向け、株式譲渡手続を円滑に進めるとともに、連携体制構築が必要。R2年4月からの国内線別棟ビル供用に当たり、利用者の安全性・利便性の確保が必要 空港の国際拠点性の向上や外国人観光客等の増加を図るため、既存の国際定期便の利用促進による路線の安定化を図るとともに、新たな海外新規路線の誘致が必要 空港へのアクセス向上やリダンダンシー確保のため、国道443号や県道堂園小森線の早期整備が必要 空港におけるコンセッション方式の導入効果の最大化を図るため、新ターミナルビル開業(R4年度中)にアクセス鉄道の開業をできるだけ近づけることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 新運営権者と協議を進め、役員派遣など県の空港運営への参画方法を決定するとともに、パートナーシップ協定の締結など連携体制を構築。併せて、国内線別棟ビル供用等に向け調整を実施 旅行需要の掘り起こしなど、引き続き既存路線の利用促進に取り組むとともに、本県の魅力の発信や、チャーター便の運航の働きかけなどを行い、新規路線の就航・定期便化を目指す 国道443号の4車線化や県道堂園小森線の早期供用に向け整備を推進するとともに、阿蘇くまもと空港地下道の防災施設の更新を空港ビル建替え工事と調整しながら推進 アクセス鉄道整備に向けた詳細な調査・検討を実施するとともに、引き続き空港ライナーの安定的な運行を実施
<p>施策12-②</p> <ul style="list-style-type: none"> 八代港について、国、県及びロイヤルカリビアン社の三者合同で八代港クルーズ拠点基本計画を公表。また、県が整備する大型バス等の駐車エリアの造成工事に着手 船食で使用する県産品を納品するとともに、船客及びクルー向けに八代市で開催された「本町マルシェ」にて県産農林水産物のプロモーション等を実施。また、県内旅行社等と開発した地元消費型ツアーを売り込むとともに、更なるツアーの造成等に向け船会社と意見交換 国による八代港の耐震強化岸壁の整備について、地盤改良工事や、泊地整備に係る海底土砂掘削の一部工事が完了 八代港において、新コンテナターミナルの供用を開始するとともに、既存ガントリークレーンを移設してリダンダンシーを確保。また、八代港や八代ICを結ぶ都市計画道路の南部幹線の用地取得を促進 荷主企業の不安の払拭を図るため、知事のトップセールスやセミナーを開催。国際コンテナ貨物取扱量は、H29年と比較し、熊本港で約13%、八代港で約10%増加し、熊本港は2年連続、八代港は3年連続で過去最高を記録 	<ul style="list-style-type: none"> R2年4月のクルーズ拠点の供用開始に向け、国やロイヤルカリビアン社との工事工程調整等、更なる連携が必要。クルーズ船の寄港数がやや減少しており、寄港数及び地元消費の維持拡大が課題 船食で使用する県産品の納品の継続化に向けた取組みや、クルーズ船の経済効果が地元経済に波及するような取組みが必要 災害時の支援活動の拠点としての機能を確保するとともに、人流・物流の機能向上を図るため、耐震強化岸壁の早期整備が必要 更なる物流機能の向上を図るため、航路等と併せて道路網の早期整備が必要 コンテナ取扱量の増加を図るため、熊本港や八代港の更なる利便性の向上や荷主企業への働きかけが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 年間70隻以上の寄港の実現や、将来的な年間200隻程度の受入れを目指し、国、ロイヤルカリビアン社と連携し、クルーズ船専用岸壁や駐車エリア、旅客ターミナル等の人流ゾーンの整備をR1年度中に完了。引き続き円滑なツアー受入れを推進 シェフ等の産地視察の実施等、県産食材の取引機会を創出するとともに、規格外商品の提案等、低コストでの納入に向けた供給体制を検討。また、中国の旅行会社等への地元消費型旅行商品等の販売や地域資源を活かしたツアーの造成を推進 八代港では、R1年度末までの耐震強化岸壁の整備の完了を目指して事業を促進するとともに、熊本港は、耐震強化岸壁の早期着手を国に要望 航路整備を促進するとともに、コンテナターミナルの付帯施設等を充実させる。また、都市計画道路の南部幹線の用地取得を推進 引き続き、船社に対する新たな助成制度により新規航路開設や既存航路の延伸・増便を図るとともに、コンテナ輸送の新規利用や利用拡大に向けて助成制度を活用した荷主企業へのポートセールスを実施